

すべての子どもたちの 健やかな毎日のために!



練馬区の「子どもの居場所づくり事業」とは

<学校応援団ひろば事業>

- 区内全65小学校で、全児童を対象に実施している事業
- 地域住民で構成される学校応援団スタッフが、学校内のひろば室等で、子どもの活動を見守ります

<学童クラブ事業>

- 共働き家庭等で、保育が必要な児童を対象とする事業
- 放課後、長期休業等に、学童クラブ施設で子どもたちの遊びや生活の場を提供しています

「夏休みの子どもの居場所づくり」を拡大します

- 夏休みは開設していない「学校応援団ひろば室」を利用し、学童クラブ運営事業者等に運営を委託する「夏休み居場所づくり」のモデル事業を6校に拡大します
- 希望する全児童を対象とし、児童の見守り等を実施します

【問合せ先:子育て支援課(03-5984-5816)】

制度や仕組みだけでは、子育てはできません

- 子どもたちが、健やかに育つためには、親子のふれあいや会話、地域とのつながり等家庭や地域の環境が大切です
- 学童クラブやひろば事業は、あくまでも子どもの居場所の選択肢を増やし、安全・安心を守るための仕組みです。その運用や利用は、大人の都合によるものではなく、本当に「子どものための居場所」づくりにすべきです



練馬区議会議員 第五十九代議長 関口 かずお

常任委員会 区民生活委員会 委員

特別委員会 医療・高齢者等特別委員会 副委員長

各種委員会 民生委員推薦会

順天堂大学医学部付属練馬病院運営連絡協議会

ご相談は... 関口かずお 事務所

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

ぼっち席から 立ち上がれ

先日、新聞に「ぼっち席」という言葉を見つけた。大学の学食で、相席を嫌がり、一人でも周囲の目を気にせず食事をしたという学生の要望で、一人用席や、机をアクリル板などで仕切った席を設ける所が増えており、学生はそれを「ぼっち席」と呼ぶのだそう。 「ぼっち席」なら落ち着ける、気兼ねせずに座れる、らしい。そこには、対人関係が苦手な反面、孤独に見られるのも嫌うという、今の若者たちの複雑な気持ちがあるという。

そういえば最近、ファーストフード店でも、同じような席を見かける。学生だけでなく、多くの人が、同じような席を求めているということなのだろう。

私は一人っ子で育ったせい、一人で出かけた時、食事をしたりすることに抵抗がなく、むしろ一人になると、

ちょっとホッとしたりもするのだが、逆にまた、店のカウンターやテーブルで、知らない人と相席になることにも、それほど抵抗がない。

同じテーブルについてた人と、何となく目が合って、挨拶をかわし、たわいもない話をしたりすることもまた、食事の味、というものである。

お互い、それぞれの時間を邪魔しない程度の、名前も聞かない付き合いだが、それもまた、出会いであり、何かの縁であろうと、おもう。同じ時間と空間を共有する、ちいさな「つながり」を感じるひとときでも、ある。

「ぼっち席」に座って、食事の最中もスマートフォンを操り、フェイスブックやLINEといったSNSの中にある「つながり」に夢中になっていながら、同じ学食という空間に実際に存在している、隣の席の学生とは、言葉

を交わしたり、相席したりして、「つながる」ことを避ける姿は、なんとなく、さみしくはないか。

何事にも、インターネットが欠かせない世の中になり、人との交流までも、自分の手の中のパソコンや携帯といったものでできる、という時代である。連絡手段はメール、SNSで友達登録をすれば、それだけでつながる、逆に登録をやめれば、関係を絶てる、そんな世界もあるだろう。そこから始まる関係もあるだろうし、上手に使いこなせば、自分の世界を広げることもできよう。しかし同時に、生身の自分が、現実の世界で実際に生きていること、そしてそこには、やはり生身の相手があることだけは、忘れずにいたい。そして、現実の人とのつながりの重さ、大切さを、今一度、心に刻みたい。

自分の好きに過ごせる「ぼっち席」から立ち上がり、ほんの少しの勇氣を持って、隣の人に一声かけ、互いに気遣いながら過ごす相席を試してみると、新聞記事の写真的学生に、声をかけてみた。